

日光市公共施設適正化推進市民委員会会議録

件名	第二回市民委員会		
日時	平成 29 年 12 月 19 日 16:00～17:40	作成日	2017 年 12 月 25 日
場所	日光市役所 本庁舎 4 階 委員会室	記録者	管財課 斎藤
出席者			
<日光市> 田邊管財課長 伊東公共施設マネジメント推進室長 管財課公共施設マネジメント推進室職員		<市民委員会メンバー> (出席委員、アドバイザー一名簿別紙) (敬称略)	
議事内容			
<p>■配布資料 第二回市民委員会資料 資料 1-1、1-2 資料 2 資料 3 別添参考資料：日光市市有財産の利活用に関する基本方針</p> <p>■議事録</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ (副委員長) 「本日は中川委員長が都合により欠席ということですので、私が代理をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。今回で第 2 回目ということで、いよいよもって走りだしたという形でございます。本日も色々と報告等、取組等がございますので、皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。」</p> <p>3. 議 事</p> <p>○副委員長 (委員長代理) 「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。」 (1) 公共施設マネジメント計画実行計画平成 28 年度取組状況について 事務局より、資料 1-1、資料 1-2 について説明。</p> <p>○副委員長 「ただいまの説明内容につきましてご質問、ご意見等ございましたらお願い致します。」</p> <p>○委員 1 「学校については、地域住民の方からも質問が出るのだが、学校施設の再編については、教育委員会が策定した (「小中学校の適正配置に向けた基本的な考え方」) ものの中で進んでいるけれども、その上にはこのマネジメント計画があるということを知っている人もいる。どちらが本当なのかという質問が出るのだが、それはどんな風に考えたらいいかというのは難しいのだが。」</p> <p>○事務局 「マネジメント計画実行計画を作りこむときには、教育委員会が示した「小中学校の適正配置に向けた基本的な考え方」を元にして、内容の整合性をとっている。逆に言うと玉虫色の書き込みで終わっているような学校も多い。今後検討というような表現も多い。先日の一般質問で施設の廃止についての質問があり、施設廃止が 49 施設、その他にも施設再編が 44 施設ありますというのが新聞に載りましたが、まだ地元との調整がされていない中で、今後地元との調整をしていくとか、地元検討委員会を作ってどうしていくという議論をしている段階、決めかねている段階のものが 44 施設位ありますよということ。今後その辺を決めていくというのが、今の作業ということになっている。 どちらが本当かというか、整合性をとった形にはなっているが、よく教育委員会が言うのは、マネジメント計画と整合性をとってということ、考え方は整合性をとっていく必要がある。これから新たなものを大風呂敷敷いてやっていく時代ではないので、そういった所では当然整合性をとりながら、少しでも身の丈にあったような施設になるような形で進めていければという感じでは考えている。」</p>			

議事内容

○委員 1

「地域住民の方の意向をある程度聞きながら進めなくてはならないので、時間が非常にかかるという所が難しいところだし、住民にとっては、非常に施設の意味合いが重要になってくるもののあるので、その中で進めるのは非常に大変だというのは百も承知ですし、私達は立場上も非常に微妙なところですので、教育委員会としては聞かれたことに対して学校としては答えていかなければならない。でも、必要性も十分に分かっていますし。本当に難しい問題だとは思っている。」

○委員 2

「計画初年度ということで、始まったばかりの部分で、未実施として網掛けとなっているものもあるけど、こういった形で実績が出てきているという部分によって、やはり行政の区分の中において、所管所管によって、摺合せと言うものが組織の枠を超えてやっていかないと、施設配置という部分が難しくなってくるところがある。委員 1 が仰ったように地域住民の方々との合意形成というのも非常に大きな部分であると思うが、今年この形で出てきていたことをベースに所管の枠を超えた形での再編計画だとか、そういったものを事務局サイドで整合性をとって行っていただけだと有難い。

どうしても、小学校は小学校、庁舎は庁舎、住宅は住宅という形でどうしても所管がばらばらになってしまっている部分があるので、やはり、図書館だったり、児童施設だったりとか、そういったものは、一つの施設にまとめるのであれば、横の繋がりといいものが無いと難しいと思いますので。そういった意識で進めていっていただければと思います。」

○事務局

「今、委員からもお話しがあった内容については、(2)のH29年度の取組の中でご意見をいただきたいような部分もございますので、その辺の内容については、その時にお話しをさせていただければ。」

○委員 3

「今の話と重複するかもしれませんが、同じ建物内に管理する課が複数絡む施設について、同じ建物を管理するので、どこか一つの課が窓口にならないと無駄が多いのかなと思う。同じ建物をだぶって点検したり、修繕・改修等も担当課ごとに行っていたり、何度も同じようなことをやっているように思うので、その辺の無駄を省いていくというのも一つなのかなと思っている。」

○副委員長

「確かに計画が実行されて、それが、みんなに見えるような形で、見える化をしていって、今の状態なのかということや皆が認識していけば、それが積み重ねで、段々理解が深まっていくのかなと思うので、見えるような形、出来れば、文字面ではなくて、数字で見えるのが、一番みんなが食いつくと思うので、その辺やっていっていただければ。」

○委員 1

「教育委員会の事例で大変良かったと思うのは、説明会から始まって、検討設置委員会をやって、その中のことを一般の市民の方にわかりやすいように「検討設置委員会だより」という形で、今回の委員会ではこんなことを話し合って、こんなことが決まりましたよというのを、A4一枚両面刷り位のもんですけど、地域住民を含めて目に出来るように工夫をされているというのがあって、施設の再編等を行う際にはそういったところを大事にさせていただくと、地域住民の方も何をやっているのか疑問に持つことなく、理解されると思うので、そういった情報の見える化はすごく良いことだと思います。」

○委員 2

「学校なんかの部分でいくと、統廃合によって、何年度までに検討という流れで行くと思うのだが、第1期の対象施設が205施設もあるので、一つの図面上に落とし込むというのも難しいとは思っているのだが、この事業とここは繋がっていくというのが、今副委員長からもあった見える化の話じゃないですけど、そういった図表的な形で見えていくとイメージ化しやすいのかと思うの

議事内容

で、資料作成の中でその辺ご検討いただけるとありがたい。」

○副委員長

「他に意見がないようですので、「公共施設マネジメント計画実行計画平成 28 年度取組状況について」は、以上といたします。

次に（２）平成 29 年度各取組の主な内容について事務局より説明をお願いします。

（２）平成 29 年度各取組の主な内容について
事務局より、資料 2、参考資料を用いて説明

○副委員長

「事務局からの説明が終わりましたので、説明の中でもありましたが、特に最初の 3 つの案件一つ目が小来川地域の施設再編、二つ目が集会所等の施設について、三つ目が文化会館の施設については、今後、市が具体的に検討を進めようとしているものについてでありますので、ざっくばらんな意見を皆さんにいただきたいと思いますので、各委員さんからおひとりずつご意見をいただきたいと思います。」

○委員 3

「こういう風に再編する取組は凄く重要な取組で、良い取組だと思います。今取組内容を見てきたように、小来川の地区センター等は一日平均して 10 件しか取扱いがない施設があるとか、利用が少ない施設はまだあって、維持するのに大変だと思うので、そういう中で施設を統廃合していくというのは大切なことだろうなと思います。

ただ、その中でわからなかったのは、学校がわからなかったのだが、小来川小中学校はあくまでも、小来川小中学校として残しておくという方向での今は段階なのでしょうか。例えば今市地域の小学校・中学校に統廃合するという形でも動きはあるのでしょうか。」

○事務局

「統廃合するという動きはないです。」

○委員 3

「生徒数が平成 33 年度に既に小中学校合わせて 15 人程度になるという推測がわかっているのに、それをまだ小中学校としては残すのかという疑問があつて。小来川地域からであれば、今市地域の学校にスクールバス等の送迎で十分可能な範囲なので、今市地域の学校に統廃合という動きもあるのかなと思ったのですが。」

○事務局

「先程から何度か話に出ています、教育委員会が策定した「小中学校の適正配置に向けた基本的考え方」の中では、とりあえず、今後 10 年間の考え方として、中学校区単位は残しましょうという考え方。ですから、小中学校については、基本的に残していこうという考え方の中での話になります。ただ、委員さんが仰ったように、H33 年に 15 人程度しかいなくなる、どんどん人口も減っていく、子供の数も減っていくといった中では、今後そういったことも出てくるのかなと考えられますが、現時点においては、教育委員会の考え方はそうではないというところです。」

○委員 1

「今の小来川小中学校の話もそうですが、これらの取組がこれから具体的にということなんですが、地域住民とかの皆さんには？」

○事務局

「今日説明した取組については、まだ実際、内々での検討をしているだけの話なので、実際、この委員会で説明してからというのもですが、教育委員会部局への話とか、学校への話とかというのもまだ一切していないような状況です。ただ、こういったことも考えていかないと当然いけないのかなということで、小中学校の考え方の中では、学校は地域のコミュニティの核施設、拠点として残していきたいと思いますという所からすると、小来川地域では、学校・保育園・地域の運動会等、地域行事と一緒に実施されているとか、コミュニティの強い地域だということもあります

議事内容

ので、うまくその辺を、他の地域のパイオニア的なところで、やっていければという思いだけのものではありません。学校の中に他の機能が入ってくるというのが、抵抗感があつたりというのが、昔からのところであるのだと思うのですが、少し、この辺を考えてやっていかなければならないという構想段階のもので、決定事項でもないし、こうなるという訳でもないものです。もちろん、庁内の関係課との調整をしているものですが。」

○委員 1

「そのためには、地域住民や、学校側にも伝えていかなければならないと思う。自分は公民館関係と繋がりがあつたような仕事をしていたので、他の自治体では、過疎化していないような地域でも、公民館と学校が一緒になっているような事例はいっぱいあるので、そういう情報等を住民もそうだし、学校教職員にも伝えていかないとだめだと思う。突然言われても驚かれてしまったりするだけなので、そういった事例等もあるということ伝えていくのが必要だと思います。」

○事務局

「事業に具体的に取り組むにあたっては、当然、その地域の住民の方へまず話をしたりとか、学校への配慮とか、教育委員会への話とかした形でということにはなります。」

○委員 1

「当然、公民館とか支所機能なんかを一緒にして、逆に地域住民のコミュニティとして成立しているところもいっぱい事例としてあるので、そういうことも伝えていかないと、やる際にはもったいないかなと思う。

文化会館については、全く説明のあつたとおりに思っている。今は研修会等を開催するのも、あつちの施設も、こつちの施設も造つた方がいいという考え方で、わざわざずらしてたりするが、実際は使い勝手の良さが違つたり、どうしても中心となると、今市文化会館ということになってしまうところがあるので、これは難しいところだけど、3つは多過ぎというのが実感としてあると思いますし、そして、ニコニコ本陣も造つて、そこのホールも使うこともあるし、そういったこともあるので、これは、検討するというか、集約を進めるしかないかなという感じ。その他のもう既に進めているような事業は、先行して実施した事例の結果で、こういう所が良くなったとアピールしていくしかないと思うので、やるところには伝えていくしかないかと思ひます。

どうしても小学校中学校の統廃合とか、小中併設もそうなのだが、そういうことだよということでは始まつたところは認識が深いけれども、他の学校では自分のところは関係ないということになってしまうので、本来は同じレベルで一緒に考えていけるような情報提供とか、説明会や研修会などの機会は設けていく必要があるのではないかと感じました。」

○委員 2

「まず、1点目の小来川地域の庁舎の再編ということですが、私は良く小来川に行かせていただくこともあり、実際この小来川と言う地域、地域のコミュニティが強い地域だなということをつくづく感じています。先程説明もありましたが、地域の夏祭りなども自治会総出でやられていまして、行政も絡みつつだが、様々な取組も、自分の知人の方が実行委員長になって色々やらせていただいているところでもある。確かに児童数減つてしまつてしまつている部分はあるのですが、子供がいなくなつていくと、更にこの地域の過疎化の問題とか、地域の力と言うものが、薄くなつてしまつて、弱くなつてしまつていくという部分がありますので、現状の考え方で、いかに集約させていくのか、後はこども達と地域の大人、高齢者まで含めた形でのコミュニティの強さを維持していく方向というものを模索していくということが、この地域自体の力を溜めていく上において必要なのではないかと思います。取組の説明の中にこの話が出てきているということは、これが先進事例になっていくと思ひますので、これが、良い形で進んで行けば、栗山や足尾地域だつたりという地域においても、コミュニティの強さという部分においては、この小来川地域とはまたちよつと違つたとは思ひますが、良い方向に進んでいくのではないかなと思ひますので。やはり、地域の方々との合意形成というのが、一番大きくなつてくるとは思ひますけれども、そういう形で進めていただければと思ひます。

2つ目の集会所施設等についてということですが、やはり、足尾地域と栗山地域に非常に多

議事内容

い部分があるといった中において、先日、土呂部の公民館なども使わせていただいたのですが、ものによっては非常に新しくして利用し甲斐のある場所にありますが、今回の資料には築年度がでていせんが、老朽化が進んでしまっているものもあるかと思ひます。この中での利用形態の変更といったものも一つの手法ではありますし、今、地域おこし協力隊の皆さんが足尾地域や栗山地域には入られていますので、そこの拠点施設としての利活用であるとか、そういった方々に管理をお願いする等の形で、地域を盛り上げる施設としての利活用というのも一つの選択肢として考えていただければ良いのかなと思ひます。

3つ目の文化会館といった部分に関しては、利用状況等を見れば明らかといった部分はあるのですが、私が属する団体も様々な事業をやらせていただいておりますけれども、実際、今市文化会館単独になってしまうと、事業をやる上において、なかなか日程等がとれないという部分も聞いております。新たなものを造るのか、現状の文化会館を改修して使うのかといったところが、最終的な落としどころと各論になってくるのかなと思ひますが、今年藤原も使わせていただいたりとか、日光も良く使うのですが、どちらも観光の中心地域といった部分で、市民の方々が施設を利用する上では、非常に不便な場所にあるといった部分もあるかと思ひます。

日光にしても藤原にしても、新しい行政センターが来年3月に出来上がるといった部分で、行政センターの中身という部分が見えていない所ではあるのですが、その中で、こちらの両文化会館にあった、会議施設といったものが十分に賄えるのか、賄えないのかといった部分が非常に重要な要素になってくるのかなと思ひます。日光においても、各自治会の集まりだったりとか、観光協会の地域の集まりだったりとか、ホール部分は使わないけれど、大会議室の利用状況は以外とあつたりする部分がありますので、100人規模、150人規模に対応できるものが、新しい行政センター庁舎にあるのか、ないのかということも頭に入れておいた方が良いのかと感じるところです。今回二宮記念館、市民活動支援センターが新しくなりましたが、実際使わせていただいでいて、一番広い部屋のスペースといったものが、以前より狭くなっているのかという感じも受けています。実際の利用人数に応じた柔軟性といったものが、施設上において必要になってくるのではないのかなと言ったところも感じているところでの意見として述べさせていただきます。

保育園等の統廃合という部分においては、これは進めていかなければならないものだと思いますので、先程の学校施設と保育施設と老人施設の共有化という部分も頭において進めていただければ有難いなと思ひますので、よろしくお願ひいたします。」

○副委員長

「この取組は走りながら、人口減の中でそれを見据えながらやっていくということで、非常に難しいものだと思います。どこに落としどころを持っていくのかというのが、非常に難しいところだと思ひますが、その中で、やっぱり床面積が一番多い学校、学校は凄くウェイトが高いところ、それがあつた程度どこかの時点で市民に情報を提供して見せていかないと、いつなつても論議が深まらないのかなと思ひます。遅かれ早かれ出てくる問題なので、ある程度提示した方が良いのではないかと感じているところではあります。どこの地域でもそうですが、今までのサービスならサービスが今後どうなるという、そのメリットとデメリット、どんなのがあるというのを具体的に出して、こんなデメリットがあつたけど、対してこんなメリットがあるというのを、それはこういう背景があるからだよというところを、ある程度青写真みたいなものが必要なのかと思ひます。

例えば、嫌だと言つてもどこがネックなのかというところが必ずあつたと思ひ、何で嫌なのかというところを穿り出さないと論議が深まらなかつたと思ひますので、その辺も提示したり掘り出したりしていただければ、市民一人一人により理解していただいでいて、論議してもらつたというのが、一番良いのかなと、全般的なことではありますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

各委員からの意見は以上のようなので、西尾先生からご意見いただければと思ひます。」

○西尾アドバイザー

「次第1に関しての意見も含めてという部分もありますので、議題(3)までまとめた形でご意見述べさせていただきます方がよろしいでしょうか。」

議事内容

○副委員長

「それでは、西尾先生には議題（3）までまとめてご意見をいただくということで。では、皆さんから意見をいただきましたので、（2）平成29年度各取組の主な内容については以上といたします。意見等参考にしながら、更に取組を進めていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

次に（3）公共施設マネジメントシステムを活用した施設情報の収集・分析状況につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

（3）公共施設マネジメントシステムを活用した施設情報の収集・分析状況について
事務局より、資料3を用いて説明

○副委員長

「事務局からの説明が終わりましたので、只今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。」

○事務局

「施設カルテについては、本来はもう少し早く出来上がる予定だったのですが、作業に手間取っておりまして、所管課も入力が初めてというところになかなか進まないというのもありまして。

ただ、こちらの施設カルテ、見ていただくとわかるように、先程、委員さん方から見える化のお話がありましたが、施設の状態などがどんな使われ方をしている、どんな状況なのか、また、右のページに施設の総合評価という所があるのですが、ここでは、同じ用途の施設の状態と比べて、当該施設がどうなのかという評価をプロットして見えるような形にしております。」

○委員3

「凄く一元化して管理できるので、現在どういう状況になっているか、長期的に見てどのように維持していったら良いのかわかるので、凄く良いことだと思います。むしろ今までこういったものがなかったことで、無駄が多かったのかなと思いますので、素晴らしいと思います。

これを管理されるのは、管財課マネジメント推進室の方で管理されると思うので、所管課が直接何かいじるとかということは、今後はなくなるということですか？」

○事務局

「このシステムに情報を入力するのは担当課が行い、入力された情報を一元的に整理して分析して見せるのは管財課になります。この施設に関する情報自体は毎年更新して、利用者数やコスト等を更新していく。特に劣化状況、毎年点検するののかと言うのは施設の状態によって判断すべきところもありますが、毎年継続して点検結果等の劣化状況の履歴が残ることで、前年度とかの比較とか、そういったものを、担当課が自分達で判断、例えば利用者数が落ちている等の状況を確認して、運営の見直し、施設の改善をするのにも役立つツールだと思っています。そこは施設担当課にも見えるような形で整備しております。」

○副委員長

「市営住宅関係は、これは建物ごとなのでしょうか」

○事務局

「市営住宅については、施設カルテ上は団地ごとに1施設。ただ、建物情報という欄があるのですが、施設の主要7棟しか入らないのですが、例えば1団地に10棟あれば、主要な7棟の建物の情報は入るような形になっています。施設として、どうなのかというところを分析するものなので、建屋ごとの話は、劣化問診票とかは建屋ごとに作っているのですが。」

○副委員長

「わかりました。というのは、少し細かい話になってしまうのですが、市営住宅で戸建てのやつで、古くて築50年とか60年とか経過しているものは、入居料金も安くて、低料金で入居されていて、なかなか退去しないという状況だと思うのです。例えば、そこに入居されている方が近くの市営住宅にでも引っ越ししてもらえれば、そこを更地にして、市有地を売却すること

議事内容

ができるということが出来ると思うのですが。なかなか難しいことだとは思いますが」

○事務局

「入居者の方の意向という部分もあるかとは思いますが、市営住宅を所管している建築住宅課の方では、出来るだけ同じ地域内の違う団地の中で集約していこうという方針でいます。戸建てではなく団地化されている RC 造等の集合化された住宅の方に移っていただけるように、そこには、引っ越しにかかる費用等を支援する政策も考えなければならないという話もあるのですが。そういったところも政策的にやりながら、地域内の団地を集約していくという形で調整は始めているところです。

藤原地域の大原住宅なんかは、他に地域内に下原と自由が丘という団地があって、それぞれ古いので、その団地の方々に新しくできる大原住宅の方に移転しませんか、その際には引っ越し費用等は少し補助しますよということで、プラスαの何かをつけて、そちらの方へ移っていただくような施策も進めております。」

○副委員長

「是非進めていただきたいと思います。

他に何かございますか？では、他にないようですので、最後に西尾先生の方からお願いいたします。」

○西尾アドバイザー

「全国的に計画を作ってこれからどう実行していくかということで、悩んでいる自治体が多い中で、非常に頑張っていて色んな取組を進められているなという印象を受けました。本当に全国でもトップレベルの取組に移っている自治体だなと思いました。

ただ、計画を進めていく時には出来ることをとにかくやろうという側面と、もう一つは計画をきちんとたてて計画どおり進めていくかということ、マネジメントしてやっていくということ、両方やっていかなければ。出来ることをやるという事も大事ですが、それがやった結果として本来やらなければいけないところをどれ位出来ているかということ、ちゃんとチェックしながら、それでも足りないのであれば、もっと加速しなければいけないですし、そういった計画のマネジメントというところも一方で大事なかなと思います。それがちょっと見えてこないというのが、もう一方の印象でした。

資料1-1で、進捗状況についての報告があったのですが、これは、何をやっているのかということ、それは良くわかるんですが、やった結果として、計画がどれくらい進んでいるかということが分かるかと言うと、それが分からない。最後に口頭の説明で、77% 取り組んでいるというお話がありましたけれども、そういうことをチェックしていく必要があると、目標に対してどこまで出来ているのか、出来ていないのであれば、何が出来ていなくて、それをどうすれば、計画に沿った所に戻していけるのかという PDCA の PLAN と DO というところが出来てきているので、それをちゃんとチェックして、次の PLAN に反映していくというチェック、アクションというところをきちんと出来るような仕組みなりを整理していく必要があるかなと思います。

ですから、今回この資料というのは、進捗状況を報告するという事が目的になっていますので、報告して終わりだよという印象をどうしても受けてしまうのですが、本来目標として何を設定していて、それに対してどこまで取組ができたのかという、目標と実績が対比出来るように資料としても見せていくべきではないのかなと思います。未着手というものが、これはちゃんと書いてあるんですけども、本来28年度の目標にしていなかったところで、未着手だよと言う47件と、本来やるべきとしていながら出来ていない未着手のものが30件で、同じ未着手でも全然意味合いが違うはずなんですよね。それが、同じ未着手としてしか出てこないというのは、じゃあ次どういうアクションしていったら良いのかということに繋がっていかないで、必ず目標と実績を対比しながら見せて行くということが大事だと思います。関連しまして、今回57施設については、方向性が確定していて、各所管課でやっていくからですよと言われてはいますが、それも含めて市全体で、どこまで進んでいてどこを取り組んでいかなければいけないのか、委員からもご指摘がありましたが、各所管、所管の取組では対応しきれない部分、全市的な観点でもう一度見直さなければいけないということが、必ず出てきますので、それをやる場というのが、この公共施設マネジメントの部署、管財課として、全市を見渡してやっていくという観点で

議事内容

とても大事だと思いますので、個別に委ねているものは別だよとしないで、この57施設のことも含めて、市全体の計画がどうなっているかということが俯瞰出来るように、そういったことを、副委員長が仰っていた、まさに見える化をして、共有していく。それを市民の場でチェックして、市民からここが足りないねとかここをもっとやっていかななくてはいけないということを市にフィードバック出来るような、そういう仕組みが出来ていくと非常に良いかなと思いました。

資料2の方では個別の取組をお聞きして、それぞれ素晴らしいなと思いました。

小来川の件については、やはりこの小中学校が、教育委員会の方針としては、拠点として維持していくというお話でしたけれども、小学校で3人の児童という事は、複式学級以上に厳しい状況で、本当にこれを維持することが良いのかということ、地元の方も含めてきちんと話し合ってみる必要があるのかなと思います。私が他の地域で良く聞くのは、学校をどうしても残したいという声が強いの、むしろ学校に通っている子どもとか親御さんではなくて、OBの方が残したいと言っていて、実は通わしている親御さんは、もっと多くの子ども達の中で自分の子どもに教育を受けさせたいと思っている親御さんが結構多いという話を聞いたりしましたので、やはり、学校というのは、主役は子どもだと思いますので、子どもの教育という観点からも本当にこの少ない人数でもあくまでも残していくということが良いのかどうかということも含めて、話し合っていくということが大事なのかなと思います。

それから集会所施設については、もしこういった形で検討を進めていければ理想的かなと思いますけれども、お話しでもあったように、自治会の中でもかなり人口が減ってきていて、担い手になるのが難しくなってくる中で、本当に譲渡ということが出来るのかということ、実際はかなり難しい問題もあるのかなと思いますので、他の自治体で、良く落としどころかなと思われるやり方として一つあるのは、施設のハードの部分にかかる管理、建設とハード部分の維持管理にかかるものについては、税負担で見て行って、運営にかかるランニングコストについては、地元の負担で見ていく、利用料金とか地元負担でみていくという、そういったハードの負担とソフトの負担とで分けて、地元と税負担とで分担するという考え方も良いのかなという風に思います。

集会所というのは、地域の機能ということでは、重要な拠点でもあると思いますので、むしろ、市全体でいった時に、どこに大きな問題があって、どこは小さな問題なのかという問題の大小の見極めというのも実は大事なかなと考えていまして、場合によっては、例えば文化施設みたいなものは規模が大きい訳で、これ一個解決できれば集会所については、全部解決出来てしまうという可能性もあると思います。問題はどこが重くて、どこが軽いのかというのが分かりにくい、全部が並列で並んでいる感じがしますけれども、市としてこの問題さえクリアできれば、この問題はかなり大きく改善出来るというものがあると思いますので、どこに目をつけて、重点的にやっていくかという事を考えていくことが大事かなと思います。

今回、文化会館のコストシミュレーション出していただいたのを見ただけですけれども、20年で126億かかると言われている訳ですよね。他の資料を見ると、市全体の施設で1年当たりかかるのが、27・28億と言う話だったと思いますので、この文化会館だけで、20年ですけれども、市全体の4、5年分のコストをくっつけてしまっている。1年当たりになると20%以上は文化会館にお金を使っているということですので、本当に市民皆さん良いのですかと言う投げかけもあっていいかなと思います。この文化会館が例えば3分の1の規模になれば、それで、学校はどれだけ維持できるのですか、集会所はこれだけ維持できるんですという、結局そういう話だと思うんです。ゼロサムというか、全体のパイが決まっている中で、どこに分配していくかという話だと思いますので。文化会館がもちろん3館あれば良いことはわかりますけれども、それにこれだけお金がかかっていて、ここにちゃんとメスを入れていけば他の施設がこれだけ救うことが出来るんですよという議論が出来ると、もうちょっと文化会館の議論も変わってくるのかなと思います。

個別の取組については、そういったことを感じました。

庁内的な取組としても、事前協議制度とか、施設の劣化調査とか、その後の有効活用とかという所に入ってこられていますので、凄く進んでいると思います。

一つだけ参考に申し上げますと、施設の劣化調査を施設の所管課が行っているという部分で、凄くこれは良いなと思うんです。技術者も足りないというところもありますので、専門科だけに任せるのではなくて、管理者も点検をしていこうということですね。これ、もう一歩進んで、点検だけではなくて、簡単な補修も研修すれば、ペンキを塗ったりある程度出来るようになりますので、そういうこともやっている自治体ありますので、補修についても自分達で出来るものはや

議事内容

っていく。場合によっては、それを市民と一緒にやったりすることもできる。市民と一緒に施設の簡単な補修をやるということで、市民も補修とか施設の維持管理に関わって行って、一緒にその施設を守って使っていくということに繋がっていくと思いますので、そういったことも今後考えられていくと良いのではないかと思います。以上です。」

○副委員長

「西尾先生ありがとうございました。

他にご意見等あれば、せつかくの機会です。また何か月か後の会議になってしまうと思いますので、今日、これは言っておきたいということがあれば。

特にないようですので、では、以上で本日用意された議題につきましては、終了とさせていただきます。進行につきましては事務局にお返しいたします。」

○事務局

「ありがとうございました。各委員の皆様、また西尾先生から貴重なご意見をいただきましたので、これから本格的にマネジメントを進めていくこととなりますので、十分参考にさせていただきますながら、進めていきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思っております。

次第のその他の事項について、1件ご案内させていただきます。」

4. その他**・事務局より事務連絡。**

次会の会議ですが、副委員長の方からもありましたが、来年度になります。多分今年度最初に集まっていたいた時と同じ頃、6月位を考えております。」

○事務局

「では以上を持ちまして第二回公共施設適正化推進市民委員会を終了させていただきます。」

以上